

入 選

国を越えて水を守る

茨城大学教育学部附属中学校

三年 村 井 愛 莉

持続可能な社会を目指して国連総会で定められた「SDGs」。その中の一つに、こんな目標が掲げられています。

「安全な水とトイレを世界中に」

果たして、この目標は実現されているのでしょうか。二〇二五年現在、水道の設備がない暮らしをしている人は、世界で二十二億人以上います。世界の総人口が約八十億人なので四人に一人が水の供給が不足しているという状況です。私はこの状況を少しでも改善したいと思い、詳しく調べることにしました。

そこで、私はとある動画を見つけました。「水道がない地域に生まれた女の子の一日と」というタイ

トルとともに、一人の少女とラクダがうつっていました。正直、私は「さすがに大げさだな」と感じました。けれど、その動画の再生ボタンを押し、動画を見てみるとそこには、広大な砂漠をラクダを引き連れて歩く少女、必死になって水をタンクに汲む少女の姿がありました。私はこの光景を見て、言葉にできない不思議な気持ちがかみ上げてきました。どうにかしてあげたい、けど自分の手ではどうすることもできない、もどかしい気持ちでいっぱいでした。

少女はまだ十三歳、暑い日も寒い日も八時間かけて水を汲みに歩くのです。今日を生きるために。少女が汲んでくる水は、決して安全とはいえない地表水と呼ばれる水で、その水を使うには一度ろ過するため、一日に使える水はわずか五リットルほどです。当然、少女は一日の三分の一を水汲み作業が占めているため、学校に通えていません。けれど、少女や家族にとっては、生きていくために必要なことなのです。

少女のように世界中の女の子や女性たちが水汲みに費やす一日当たりの時間の総計は、二億時間と

言われています。二億時間と聞いても、私たちは想像が付きません。それくらい少女たちは今日を、明日を生きるために、懸命に働いているのです。

もちろん、水道設備の不便から労働を余儀なくされているのは少女だけではありません。アフリカ、アジアなどほとんどの国に安全な水が届けられていないため、水汲みという労働を強いられ、教育もともに受けられません。子供にとって過重労働な水汲みや、不衛生な水質などの影響で、一日八百人の子供が命を落としています。私たちは、こんな劣悪な環境を他人事だからと言って、見て見ぬふりをしているのでしょうか。私たちにできることはきっとあるはずです。

不衛生な環境を生きる子供たちに私たちができること、それは水源保護だと思っています。現在、各国で都市化が進み、森林伐採によって水を蓄積していた森が減少したり、人間が排出した生活排水が川や海へ流れ出ています。日本には浄水場などが存在しますが、世界にはこのような設備が不足しているため、一度汚染された水はそのまま使用せざるを得な

くなり、安全で綺麗な水は不足していく一方なのです。そこで私たちが今ある水源を守っていくことで、少しでも改善につながります。水路や川の清掃ボランティアに参加する、世界各地で起こっている問題について知り、周囲に呼びかける、などの行動で状況は変えることができます。一人一人が意識をして、行動を起こすことが大切です。

国連総会が定めた目標の年まであと五年。世界には他にも解決しなければならぬ問題がたくさんあります。二〇三〇年に必ず実現されるのか、まだ誰にも分かりません。ただ私は信じ続けます。子供たちの笑顔が増える日を願って。